

●夜の生き物調べ 7月25日(土) 16:00~21:00 翌朝(26日)虫の確認 5:00~6:00

この取り組みは2019年7月に桜谷先生にお世話になって始めた昆虫観察会で、以後毎年開催してきました。昆虫好きの子ども達には人気のイベントで今年は54名という大勢の参加でした。特に梅雨明け直後は低温でしたが夏休みに入る頃から猛暑日や酷暑日が続き、市役所からはイベント中止の連絡があるほどの危険な暑さの連続の中での取組でしたから、万一の事故が起きれば大変心配されました。事前準備は25日9:30~11:00、後片付けは26日9:30~10:30でした。

★主催者の里山の会のスタッフが80歳前後の方たちですので熱中症防止が決め手でした。

★参加者が50名を超える大勢でしたのでスタッフの人手が不十分で、万一の対応について課題がありました。

★こうした課題を説明し安全第一なので保護者はもちろんそれぞれ子ども達にも無理をせずに取り組んでほしいと呼びかけました。

白土山への周遊散策は中止としました。また塩飴や保水液の準備を行い、大型扇風機の持ち込み、に加えて足元への水撒きを行うなどの準備をしました。こうした効果があったのか無事に終えることが出来ました。

リーダーの桜谷保之先生や野村氏が大奮闘してくださり、子ども達からの疑問や質問への丁寧な返答と解説で大満足だったと感想文を頂きましたので掲載させていただきます。少々長くなりますがこれ程の感想文をいただいたのは初めてのことです。



夜の生き物調べ 感想文など

7月25日 猛暑・酷暑の連続の中で開催

報告 夜の昆虫観察会のプログラムから

猛暑での気温の高さ(昼間 38℃)を勘案し 白土山への散策は中止しました
 17:00からは ①観察棟周辺の生き物探し バケツトラップに集まった甲虫調べ (金田)
 明るい時間帯のバケツ内人工樹液を独り占めしたのは多数のカナブンでした
 この時間帯にはクワガタムシもカブトムシも来ていませんでした
 場所を変え ②ヤナギの林 クワガタムシが隙間に3匹かくれていました 昼間のクワガタムシ
 を参加者に紹介できて安心しました
 教育棟エリア前には 風呂桶にたまった150L程度の水まき開始
 扇風機作動 地面は草地 日陰 少しは涼しくなりました
 里山農園エリアの特徴 希少な動植物の棲息地 桜谷
 収穫した野菜の紹介 森島 完売しました
 ショウリョウバッタ カマキリの幼虫多数採集 イネ科の草を根の下からシャベルで掘って土ごと
 ケースに入れる飼育法の紹介
 子ども達は草むらで様々な生き物を発見
 エリア③では 次から次へと甲虫が発見
 落ち葉をかき分け 地面に隠れているクワガタの採集に成功した模様
 1人で13匹も採集した子まで 複数現れました
 みんなの捕ったもの紹介 解説
 近畿大学の学生さんが捕ったマムシまで登場 カエルを食べました
 18:30過ぎからは 発電機作動
 ブラックライト点灯 やがて様々な昆虫が布に集まりました

暗闇から突然やってくる昆虫 水生昆虫のマツモムシも飛来
飛んできた昆虫 総計は約 9800 匹 大人 8 人による集計です
20:30 には参加者に片付けを行っていただき終了しました ブラックライトは朝まで作動
猛暑の中 健康面 安全面が心配もされましたが事故もなく無事に企画を終えることができました
やましろ里山の会スタッフの皆様 ご苦労様でした

感想文

◆昨日はありがとうございました。娘も飛び入りの参加でしたがたくさん遊んでいただきありがとうございました。子どもたちはとても楽しかったようで次回もあれば参加したいと言っていました。今日は昆虫マットを買いに行き、クワガタのカゴを生育環境を整えてあげていました。兄は捕まえたクワガタを弟に分けてあげていて、2人で大切に育てたいと思います。夕方、近所のお友達たちとクワガタのツノの力を紙を挟ませて確かめていました。

◆灯火採集を企てることは他に例のないことだと思います。八時過ぎに退席したため最終結果は知りませんが、ノコギリクワガタやミヤマのメスが飛来せず、残念でした。雨上がりの新月の夜だったら来てたのかなあなんて思っていました。昆虫好きな子供たちの育成にもものすごく役立つ活動です。

◆普段の虫取りでは、「なんの虫だろう？家に帰ったら図鑑で調べてみようね」と話すことはあっても、その場で終わってしまい、実際に図鑑で調べるまでには至らないことが多くありました。しかし、今回の昆虫観察会では、捕まえた虫に興味をもち、「この虫は何という名前ですか？」と気になったことをその場ですぐ先生に尋ねたり、お友達と一緒に虫の特徴を見比べながら図鑑で調べたりする姿が見られました。実際に見て、疑問に思い、自分から調べようとする姿から、息子の「知りたい」という気持ちが育っていることを感じ、とても嬉しく思いました。また、今回の観察会を通して、息子がどのような生き物に興味をもち、夢中になれるのかを改めて知ることができました。周りのお友達がクワガタ探しに夢中になる中でも、息子は「カエルを探したい！」と、自分の興味のある生き物を一生懸命探していました。自分の「好き」を大切にしながら楽しむ姿は、息子らしさを感じる場面でもあり、親として新たな発見になりました。これからは、息子の「好き」や「知りたい」という気持ちを大切にしながら、一緒に自然に触れ、生き物への興味をさらに広げていけたらと思います。本当に素晴らしい経験をさせていただきありがとうございました。また次の機会がありましたらぜひ参加させてください。お野菜も美味しくいただきました。

◆里山にはニホンアカガエルなどの希少種を未来の世代に伝えるためにも里山を守っていかないといけないなと思いました。小4男子

◆かなぶんが多すぎてビックリしました。マムシがカエルを丸呑みしていて怖かったです。小1男子
みんなで一生懸命にクワガタを探していたのがほほえましかったです。

◆先生たちが虫など説明をしてくださり子どもたちにとってとても勉強になりました。参加人数が多く子どももお友達ができてよかったです。父

◆少し遅れての参加になってしまったのですが、息子は一目散に他のお子さん達がクワガタ採りをしている所に仲間入りし、クワガタやカミキリムシ、コガネムシなどを捕まえては「桜谷先生と野村先生に報告してくる！」と目を輝かせていました。近畿大学の学生さんがマムシを捕まえてきてくださり、カエルを食べさせてみよう！と捕食の観察をした事がとても楽しかったです。一瞬で食べられてしまうのかなと予想したのですが、思いの外、マムシが慎重で捕食するタイミングは見られず残念でしたが、大きな口でカエルの足を噛み、毒でカエルが死んでしまう貴重な場面を観察することができました。
ライトアップには、コフキコガネやゴマダラカミキリ、蛾や羽アリなど本当に沢山の虫が集まっていて、2歳の子どもも懐中電灯で照らしながら「むし、いるー！！」と楽しんでいました。水生昆虫のマツモムシが飛んできていたことも驚きでした。

【6歳息子の感想】クワガタがいっぱいいいて良かったです。虫探しをして楽しかったです。また来年よろしくお願ひします。

【4歳息子の感想】マムシが死んだカエルを食べたのが面白かった。暑い中、企画・準備をしてくださったやましろ里山の会の皆様、本当にありがとうございました！8月5日の科学お楽しみ広場には、子どもと一緒に参加します！とても楽しみにしています。

◆昨日初めて夜の昆虫観察会に参加させていただきました。子どもたちは虫探しに夢中になり、自然の中でさまざまな発見を楽しんでいました。見つけた虫を「これは何という虫ですか？」と先生のところへ嬉しそうに持って行き、種類や特徴について積極的に質問する姿が見られました。また、「あの虫はどんなところに隠れているの？」「どこに行けば見つかるの？」と、虫の住む場所や習性にも興味をもち、子供達同士で情報を共有し、聞いたことをもとに自分たちで虫がいそうな場所を考えながら探す姿が印象的でした。



落ち葉の下や草むら、木の近くなど、「ここにいるかもしれない」と友達と相談しながら探す様子も見られ、一人ひとりが主体的に参加されていました。

昆虫採取を通して、自然への興味や探究心を深めるだけでなく、自ら考え、試し、発見する喜びを感じられる貴重な経験となりました。

【5歳息子の感想】カエルを捕まえることができたので楽しかったです。でも逃げるのがはやかったので少し捕まえるのが難しかったです。とても楽しい時間を過ごさせていただきありがとうございました。

◆夕方、まだ日が暮れきらない時間帯であったにもかかわらず、すでに1人で10匹以上のクワガタを捕獲していた子どもがおり、大変驚かされました。自ら木の幹や樹液の出ていそうな場所を探索する姿が見受けられ、その観察力と行動力の高さに感心いたしました。今回、初めてライトトラップを体験いたしました。白い布に光を当てるといふ簡素な仕組みでありながら、暗闇の中から次々と昆虫が集まってくる様子は非常に興味深く、新鮮な驚きがありました。普段の昆虫採集とは異なる形での出会いであり、光に誘われて姿を現す昆虫たちを観察するだけでも大変楽しむことができました。参加者は約50名と、想定していた以上に規模の大きいイベントであったことに驚きました。夜間、大勢で森や公園に集まり昆虫を探すという機会は日常ではなかなか得られるものではなく、大変貴重な体験となりました。いつも楽しい企画ありがとうございます！また機会があれば是非参加させてください！

◆夕方、子ども達は早速カマキリ、バッタ、カエルなど草むらの生き物達をたくさん見つけ、その後はクワガタ採りを楽しんでいました。夕方は木の皮などの隙間に入って休んでいることを教えてもらいました。一つのクヌギの木にたくさんクワガタが集まっているのを見つけ、クワガタをたくさん採ることができました。はじめは木の幹にくっついていてのものをとっていましたが、そのうち根元を探しはじめ、結局ミヤマクワガタ一匹、ノコギリクワガタ5匹、コクワガタ8匹をとりました。枯れ葉の下にもいたよ、と教えてくれました。クワガタとりをする中で、初めて会う様々な年齢の子どもどうしが自然に声を掛け合い、時には競い合い、時には協力しているのがとてもいい光景で自分の子供の頃を思い出しました。私はシオカラトンボが中型の蛾を捕食している姿を見れたのがとても興味深かったです。ライトトラップにはたくさんの虫たちが集まっていました。マツモムシやコガネムシ、羽アリがたくさん飛んできていました。今朝早くから最終的にどんな生き物が来たのか見に行かれるということで結果が楽しみです。8月の四天王寺大学で行われる科教協全国大会のこともアナウンスされていました。私は参加する予定です。とても楽しみにしています！

◆昨日は子供達にとって初めての本格的な昆虫採集でしたのでとても喜んでました。

バッタのためのイネ科の草もゲットしまして、コクワガタの部屋も整えて観察しています。同じ住宅街のご近所の方がイベントをすでにご存知だったようで、たくさん来られていてびっくりしました！長女と同じ保育園だったご家族にもお会いしたりと思わず色んな方にもお会いできてうれしかったです。サツマイモ堀りにも行きたいと子どもたちが言っております！



枯れ木のように見える
羽を閉じたクロツマキシャチホコ(蛾)

◆「こういうイベントを待っていた！」息子のその一声で、参加を決めました。夜の森で昆虫を探す機会は、私だけではなかなか作ってあげられないので、子どもたちはこの日をずっと楽しみにしていました。息子が捕まえた生き物を野村先生が「おー、これはすごい！」と目を輝かせながら褒めてくださり、それが本当に嬉しかったようで、虫を捕まえるたびに「先生に見せなきゃ！」と、私の前を素通りして先生のところへ一目散に走っていく姿がとても印象的でした。大好きな自然の中で思い切り生き物を追いかけ、同じ「好き」を持つ皆さんと一緒に虫を探す時間は、息子にとって最高の思い出になったようです。また、4歳の弟も一緒に参加しました。兄にはなかなか追いつけず、一人で足元を見ながら虫を探していると、近くにいたお兄ちゃんたちが「何を探してるの？」と優しく声をかけてくれて、一緒に探してくれたり、「これいる？」と捕まえた虫を分けてくれたりしました。子どもたちの優しさに触れ、とても温かい気持ちになりました。親子ともに本当に楽しい時間を過ごすことができました。素敵な観察会を開催してくださり、本当にありがとうございました。捕まえた生き物の写真もアルバムに入れさせていただきます。

◆朝から、庭でカナヘビ探しをしてから保育園に行く生き物大好きな4歳の孫を連れて参加しました。数日前からクワガタとりもしてたので、とても楽しみにしていました。案の定、積極的に動き回り、じいじばあばは追いかけるのに必死。孫は、遠くでお兄ちゃん達の「いた！」と言う声が聞こえると飛んで行きました。番号のついた木の下で、子ども達が根もとを掘り返しているのに混じって孫も夢中でした。クワガタの雌を3匹まとめてゲットしたとき喜びようは忘れられません。お兄ちゃん達とのおしゃべりや交流もうれしかったようです。最終的に7匹のクワガタを捕まえ大満足でした。個人では、あれほどの準備はできません。詳しい説明も聞きながら、様々な生き物の生態にふれることもでき、生きた勉強をたっぷりさせていただきました。野村先生はじめ、企画をしてくださった方々、本当に有り難うございました。これからも、企画に参加して行きたいと思いました。



天ヶ瀬ダム現地見学会 参加者募集 8月20日(木) 雨天決行

目的 山城大水害が発生して70年余が過ぎ、淀川水系に天ヶ瀬ダムや(瀬田川)高山ダム(本津川)の建設が実現し、特に本津川には5個のダムなどを管理する淀川ダム統合管理事務所で洪水や氾濫水害が防止されるようになり、近畿の 豊・琵琶湖が大切にされてきた。今回宇治の木幡池の水管理職員からの放水路の完成に伴い流量の増加による川の安全度などについての解説要望があり、その機会を持ちました。

天ヶ瀬ダムは①洪水調整、②水道水の供給、③水力発電を目的とした三つの目的を持った多目的ダムです。2年前に完成した直径10mの水路トンネルによって、今までの900m³/sだった流下能力が1500m³/sになり琵琶湖周辺の洪水被害の軽減と宇治川や淀川本流への洪水能力が強化されます。天ヶ瀬ダムを見学して、新しい水路トンネルやその他の設備などについて学習したいと思います。

参加申し込み fddb257@yahoo.co.jp 氏名 住所 電話番号 交通手段
 受付人数 先着 15名(先着順)

当日のスケジュール

9:00	事務所前集合	現地集合
10:00	現地駐車場	トンネル放水設備ゲート室
10:00~10:30	概要説明	
10:30~11:30	概要説明	
11:30	解散	駐車場
11:30~12:30	昼食	
13:00~13:30	久御山町資料館(山田屋敷)一口	
14:00~	機場見学	
15:00~	巨椋池干	
る神社		
15:30		



15:00 久御山排水
 (国交省) 巨椋池排水機
 産省
 15:30 大池神社
 拓による魚類の犠牲を祭
 自由解散

主催 特定非営利活動法人やましろ里山の会 京田辺市田辺深田 15 0774-64-4183

天ヶ瀬ダムトンネル貫通

豪雨時緊急放流回避へ



2017年11月の完成に向け、再開発事業が進行中。トンネル貫通後、左岸側で建設中のトンネル式放水設備が10月1日に貫通し、一つの節目を達成した。完成後は約1.7倍増える放流量を確保し、豪雨時に緊急放流を回避するトンネルの機能を果たす。 (取材: 相模新聞)

洪水調節 上下流のダム・河道整備鍵



トンネル式放水設備の「導流部」＝撮影・船越正幸。トンネル式放水設備の概要(国土交通省近畿地方整備局提供)

全長617mのトンネルを貫通し、トンネル入り口の近畿地方整備局が11月9日にトンネルに着手した。天ヶ瀬ダムは1953年(昭和28)年の台風10号の被害を受けた。約64(同29)年に完成した天ヶ瀬ダムは、最大流量で毎秒900m³の放水能力を有する。宇治川へ流す。宇治市や下流の洪水被害を防いでいる。だが、大雨を招き、洪水調節が効かない時は、流入量と同等の緊急放流を行うことになる。18年の西日本豪雨では、多量の洪水が緊急放流し、下流で甚大な洪水被害が出たことは記憶に新しい。天ヶ瀬ダムでも、全国初の大断面トンネル式放水設備が完成した。9月18日の大雨の際には、放水が毎日、非常用ゲートを開け、毎秒1500m³の洪水を放つ。宇治川は、天ヶ瀬ダム上流に位置する大戸川ダム(大津市)の整備も3点セットで、宇治川で安全に水を放つことが実現された。天ヶ瀬ダムとトンネルの操作を担う同国交省ダム統合管理事務所(大阪府枚方市)の沼田隆雄所長は、実際の操作は、宇治川が合流する桂川や淀川の河道改修状況も踏まえる必要がある。近年は豪雨の発生が多発し、洪水の被害も深刻で、天ヶ瀬ダムとトンネルの整備は、宇治川や淀川の河道改修と並行して進められている。沼田所長は、宇治川では対象の洪水調節に「市民の安全確保に必要」として、市民の安全確保に必要とされている。 (取材: 相模新聞)

いまこきやましろ

七月に咲く木津川の花

アカメガシワ



ヒメガマ



ヤブミョウガ



アキカラマス

